

患者さんへ

「加齢に伴う腸管免疫系の変化による腸内細菌叢変容機構の解明」

この研究は、通常の診療で得られた記録や残存検体を使って行われます。このような研究で学術研究機関(大学等)に試料・情報を提供する場合には、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんお一人ずつから直接同意を得るか、あるいはその代わりに研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表しません。

1. 研究の対象

2010年4月～2026年3月に当院で、大腸がん、小腸がん、クローン病の手術を受けられた方/受けられる方

2. 研究目的・方法

【研究目的】

本研究においては、宇治徳洲会病院で手術を受けられた患者さん（がん、あるいは、クローン病の患者さん）の手術検体（小腸）を用いて、遺伝子発現解析および組織学的解析を行うことで、ヒト回腸の正常部および病変部に存在する免疫細胞においてもマウスと同様の変化が生じているのかについて明らかにすることを目的としています。

【研究方法】

手術により切除された標本に含まれる回腸部分について、病理組織検査の妨げとならない範囲で、組織の一部を採取し、凍結保存します。この凍結検体を用いて、RT-qPCR法によって遺伝子発現を確認するとともに、免疫組織化学的方法によりタンパク質の発現解析を行います。また、ホルマリン固定された検体を用いて同様の解析も行います。これらの実験を通して、ヒトの免疫細胞における加齢に伴う遺伝子・タンパク質発現の変化を明らかにし、免疫細胞の加齢性機能変化の詳細を解析していきます。以上の解析は、大阪大学微生物病研究所遺伝子生物学分野にて行われます。

【研究期間】

当院院長承認日から2026年3月31日まで

3. 試料・情報の利用拒否

試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、「7. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、病歴、遺伝子発現解析情報 等

試料：手術で摘出した組織等

5. 外部への試料・情報の提供

手術で摘出した組織等は、凍結状態のまま、共同研究機関へ搬送します。

共同研究機関へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当院の個人情報管理者が保管・管理します。

6. 研究組織

<研究代表者>

大阪大学 微生物病研究所 遺伝子生物学分野 教授 原英二

<共同研究機関>

宇治徳洲会病院 外科 部長 長山 聡

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら以下の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：〒611-0041 京都府宇治市榎島町石橋 145 番

電話番号：0774-20-1111（代表）

研究責任者：外科 部長 長山 聡

研究代表者：

大阪大学 微生物病研究所 遺伝子生物学分野 教授 原英二